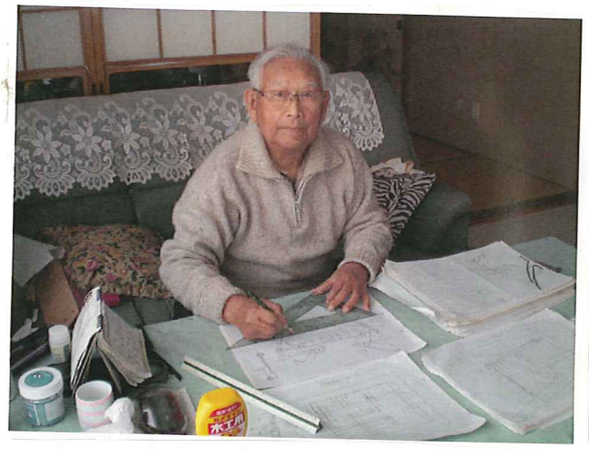
小林竹春さんが語る

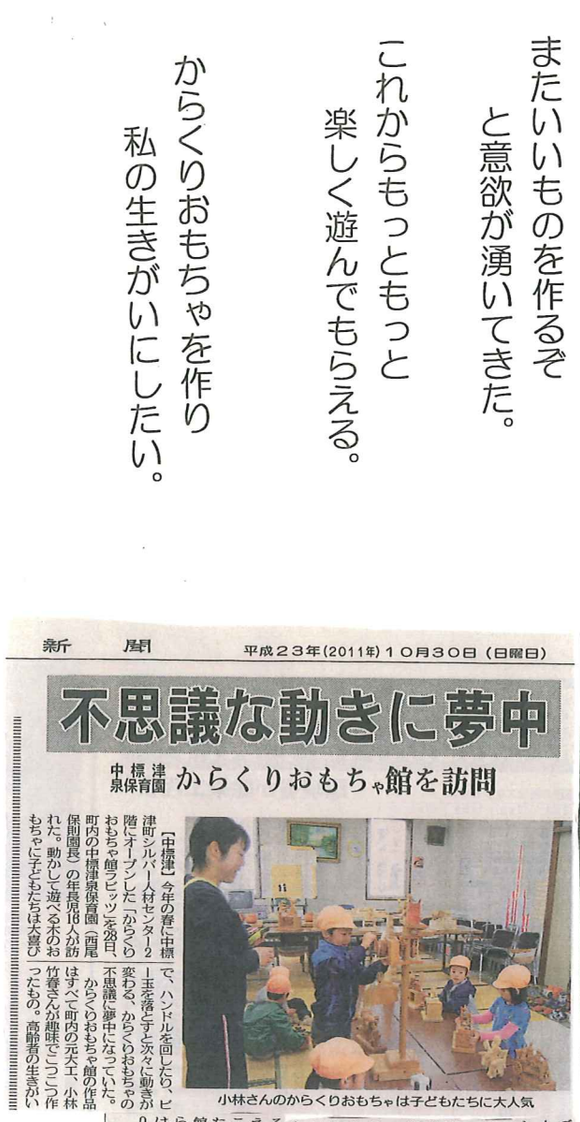
私は七十歳で
　大工の仕事をやめた。
毎日が退屈だった。
旅先で
　からくりおもちゃの
　仕組みを見て驚いた。
興味を持った。
簡単なからくりを作った。
なんとか動いた。
嬉しかった。
少し程度の高い
　からくりを考えた。
　うまくいかなかった。
失敗の連続だった。
なんども考え
　なんども作図し
　なんども工作し
　その繰り返しだった。
成功したときの
　喜びは大きかった。
嬉しかった。
またいいものを作るぞ
　と意欲が湧いてきた。
これからもっともっと
　楽しく遊んでもらえる。
からくりおもちゃを作り
　私の生きがいにしたい。



高齢者と子どもとの交流事業の一環として、事務所二階の全スペースを開放し、小林竹春さんの作品約120点を並べ、「からくりおもちゃ館ラビッツ」を開設した。からくりおもちゃの魅力は、木のにおい、手ざわり、素材さ、あたたかさ、そしてハンドル一つで四、五ヶ所、最大七ヶ所が動くその仕組み、驚き、面白さ、楽しさにある。

NHKが全道に二回にわたり放映し、反響大きく遠く函館・札幌・旭川から見学にみえた。

来年から空港ロビーに数点並べ観光客の旅の思い出にと計画している。



新聞　平成23年(2011年)10月30日(日曜日)

不思議な動きに夢中

中標津・標津・中泉保育園 からくりおもちゃ館を訪問

【中標津】今年の春に中標津町シルバー人材センター2階にオープンした「からくりおもちゃ館ラビッツ」を28日、町内の中標津泉保育園（西尾保則園長）の年長児18人が訪れた。動かして遊べる木のおもちゃに子どもたちは大喜びで、ハンドルを回したら、ビー玉を落とすと次々に動きが変わる、からくりおもちゃの不思議に夢中になっていた。

からくりおもちゃ館の作品はすべて町内の元大工、小林竹春さんが趣味でこつこつ作ったもの。高齢者の生きがいづくりにも取り組むシルバー人材センターが高齢者と子どもの交流事業の核にと、今年の春、2階のスペースを開放して、70点を超える小林さんの作品で自由に遊んでもらう様子。「面白いねえ」と繰り返し、ハンドルを回しては不思議な人形たちの動きに見入っていた。一緒に来場した西尾園長は「初めて見るようなおもちゃばかり。見るだけでなく触って動かしていいのは子どもにとって楽しくて仕方ないでしょう。園で一度訪れると次は親に連れてきてもらえるのでは」と、次は親子でこの楽しさを味わってもらいたいと話していた。からくり館は月曜・金曜の午前10時から午後3時まで開館。詳しくは同町シルバー人材センター0153（79）1234へ。（坂上のぐみ）

小林さんのからくりおもちゃは子どもたちに大人気

中標津空港で「展示」第2弾

木のおもちゃ 見て触って

【中標津】中標津空港ロビーで「木のからくりおもちゃ」展第2弾が1日から始まった。新作を含め、大人気だった「子どもの日」前回とは違う作品が10点ほどが展示されている。見るだけでなく、触って遊べるおもちゃに、大人にも子どもにも夢中になる5日も、子どもたちが

町内在住・小林さん制作 子どもや大人にも人気

所作も含め、再登場のトのからくりおもちゃ一子どもたちも夢中

やのハンドルを回した。

制作者は中標津町在住の元大工、小林竹春さん(67)。全国的にも珍しい「木の空港ビル」である中標津空港にぴったりの展示物として昨年のクリスマスシーズンに登場して人気を集め、再登場となった。

今後も定期的に第3弾、4弾…と続く予定という。今回はハンドルを回すと、ウサギが太鼓をたたきながらレールの上を移動する大型からくりが登場。ハンドルを回したり、ビー玉を落とすと、勢いよく風車が回ったり、ネズミたちがのこぎりをひき、ウサギたちが餅をつく。

小林さんの木のからくりおもちゃは町内大通北一のシルバー人材センター2階に「からくりおもちゃ館ラビッツ」として常設されている。収蔵数は100点を超える。空港の展示に案内地図を付けていることもあって、空港で見たと言って「ラビッツ」に寄ってくれる人も増えた。

「ラビッツ」は午前10時～午後3時（土日も）開館している。問い合わせはシルバー人材センター0153（79）1234。